

第3分科会 現職教育

研究課題 教職員の資質・能力の向上を目指す現職教育

趣 旨

文部科学省は、教員養成のための専門職大学院の設置や学校における新しい職の設置、教員免許更新制の導入、教員評価の改善・充実と人事管理の厳格化などに取り組んでいる。このことは「生きる力」をはぐくむ学校づくりを着実に展開し、信頼される学校づくりを進めるために、教職員の資質・能力の向上が今まで以上に強く求められていることを意味している。

教職員の資質・能力の向上のためには、まず研修の充実があげられる。現在、制度化された研修に加え、教職員に対する様々な研修が行われているが、学校教育目標を具現化し、活力ある学校づくりの中核となるのは校内研修の充実である。

研修の目的は、子どもたちに確かな学力をはぐくみ、豊かな心、健やかな体を培い、これらをバランスよく育成するための指導力の向上である。このことを教職員が自覚することが大切であり、それぞれが自分自身の指導力を高めていこうとする意識と体制づくりが重要である。

また、教師は、子どもの人格形成に携わる者として、子どもたちや保護者はもとより、広く社会から尊敬され、信頼されなければならない。そのためには、教職に対する使命感や誇り、子どもに対する愛情や責任感をもち、教育の成果を上げるための教育の専門家としての確かな力量を高めることを自覚しなければならない。また、変化の著しい社会や子どもたちに適切に対応するために、常に学び続ける向上心を持つことも大切である。

校長のリーダーシップのもと、教職員の資質・能力の向上を図り、人間性と専門性を高めるための現職教育の在り方及び具体的方策を明らかにする。

研究の視点

1 人間性と専門性を高める研修の充実

教師は、高い品格と品性をもち、自らが学ぶ姿勢を子どもたちに示していく必要がある。また、豊かな人間性や社会性、常識と教養、礼儀作法をはじめ対人関係能力、コミュニケーション能力などの人格的資質を備えていなければならない。さらに、同僚との協調性も大切である。

研修の充実にあたり、各教師が教育基本法の理念を踏まえ、どんな子どもづくりをしていくかの共通理解を図ったり、その時々で必要な最新の知識・技能を身に付けたりする必要がある。

教職員一人一人の職務や研修内容に対して適切に指導・助言したり、個々の能力や課題に適切に働きかけたりするなど、教職への情熱と人間性、専門性を高めるための校長としての役割や在り方を究明する。

2 授業力を高める研修体制の確立

授業力を高めるには、教材の見方や分析の仕方を知り、本質をとらえることができなければならない。また、子どもの理解力、生徒指導力、集団指導の力、学級づくりの力、学習指導・授業づくりの力をつけていかなければならない。そこで、それぞれの教師の授業力や課題を把握し、それらの課題解決のための方策を指導していかなければならない。

また、授業力を高めるために、教職員相互の交流と研修の機会を確保し、仲間とともに切磋琢磨する教師集団をつくったり、自分自身の指導力を子どもや同僚から評価をもらい、自己分析させて伸ばしていったりする体制づくりをしていく必要がある。

授業力向上のための研修体制の確立を図っていく校長の役割や在り方を究明する。